

## 1. 平成18年度に機構が実施した選択的評価事項に係る評価について

### 1 評価の目的

独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）の実施する認証評価は、大学の正規課程における教育活動を中心として大学の教育研究活動等の総合的な状況を評価するものですが、大学にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに大学は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われています。

そこで機構では、「評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること」、「大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと」という評価の目的に鑑み、各大学の個性の伸長に資するよう、大学評価基準とは異なる側面から大学の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択的評価事項A）と「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」（選択的評価事項B）の二つの選択的評価事項を設定し、大学の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を実施しました。

### 2 評価の実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施しました。

評価部会には、各大学の教育分野やその状況が多様であることなどを勘案し、対象大学の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置しました。

### 3 評価プロセスの概要

※ 評価は、概ね以下のようなプロセスにより実施しました。

#### （1）大学における自己評価

各大学は、「自己評価実施要項」に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成しました。

#### （2）機構における評価

① 選択的評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる各大学が有する目的の達成状況等について、評価し、その旨を公表しました。

なお、選択的評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されていますが、目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく「基本的な観点」を総合した上で、選択的評価事項ごとに行いました。

② 改善の必要が認められる場合や、取組が優れていると判断される場合には、その旨の指摘も行いました。

#### 4 評価方法

評価は、書面調査及び訪問調査により実施しました。書面調査は、自己評価実施要項に基づき、各大学が作成した自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データ等を含む。）の分析、及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて実施しました。訪問調査は、訪問調査実施要項に基づき、書面調査では確認できなかった事項等を中心に、必要に応じて大学機関別認証評価の訪問調査に併せて実施しました。

#### 5 評価のスケジュール

- (1) 機構は、平成 17 年 7 月から 8 月にかけて、国・公・私立大学の関係者に対し、評価の仕組み、方法などについて説明会を実施しました。
- (2) 機構は、平成 17 年 12 月に国・公・私立大学の自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載などについて説明を行うなどの研修を実施しました。
- (3) 機構は、平成 18 年 6 月中旬に、以下の 8 大学の申請を受け、評価を実施することとなりました。
  - 国立大学（7 大学）  
弘前大学（A）、岩手大学（A・B）、秋田大学（A・B）、山形大学（A・B）、  
東京農工大学（A）、長岡技術科学大学（A）、豊橋技術科学大学（A）
  - 公立大学（1 大学）  
奈良県立医科大学（A・B）
- (4) 機構は、平成 18 年 6 月末に、対象大学から自己評価書の提出を受けました。
- (5) 機構は、平成 18 年 7 月に評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施しました。

※自己評価書提出後の対象大学の評価は、次のとおり実施しました。

7 月	書面調査の実施 評価部会の開催（書面調査の基本的な進め方の確認等）
8 月	運営小委員会の開催（各評価部会間の横断的事項の調整）
9 月	評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、確認事項の決定等）
10 月	訪問調査の実施（必要に応じて大学機関別認証評価の訪問調査と併せて書面調査 では確認できなかった事項等を中心に対象大学の状況を調査）
12 月	運営小委員会、評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

- (6) 機構は、これらの調査結果を踏まえ、平成 19 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定しました。

(7) 機構は、評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成19年3月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定しました。

## 6 評価結果

選択的評価事項においては、その事項に関わる各大学が有する目的の達成状況について、4段階の評価を実施しました。

## 7 大学機関別認証評価委員会委員及び専門委員（平成19年3月現在）

### (1) 大学機関別認証評価委員会

相澤益男	東京工業大学長
赤岩英夫	国立大学協会専務理事
鮎川恭三	前愛媛大学長
池端雪浦	東京外国語大学長
内永ゆか子	日本アイ・ビー・エム株式会社取締役専務執行役員
岡本靖正	前東京学芸大学長
荻上紘一	大学評価・学位授与機構教授
梶谷誠	信州大学監事
北原保雄	日本学生支援機構理事長
木村靖二	大学評価・学位授与機構評価研究部長
○小出忠孝	愛知学院大学長
河野伊一郎	国立高等専門学校機構理事長
児玉隆夫	帝塚山学院学院長
後藤祥子	日本女子大学長・理事長
小間篤	科学技術振興機構研究主監
齋藤八重子	前東京都立九段高等学校長
曾我直弘	滋賀県立大学長
舘昭	桜美林大学教授
外村彰	株式会社日立製作所フェロー
檜崎憲二	読売新聞東京本社編集局次長
ハス ユーゲン・マルクス	南山大学長
福田康一郎	千葉大学教授
前原澄子	京都橘大学看護学部長
森正夫	愛知芸術文化センター総長
森本尚武	前信州大学長
山内一郎	学校法人関西学院理事長
山内芳文	筑波大学教授
◎吉川弘之	産業技術総合研究所理事長

※ ◎は委員長、○は副委員長

(2) 大学機関別認証評価委員会運営小委員会

赤 岩 英 夫	国立大学協会専務理事
鮎 川 恭 三	前愛媛大学長
岡 本 靖 正	前東京学芸大学長
◎荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
梶 谷 誠	信州大学監事
児 玉 隆 夫	帝塚山学院学院長
小 間 篤	科学技術振興機構研究主監
福 田 康一郎	千葉大学教授
前 原 澄 子	京都橘大学看護学部長
森 正 夫	愛知芸術文化センター総長
森 本 尚 武	前信州大学長
山 内 芳 文	筑波大学教授

※ ◎は主査

(3) 大学機関別認証評価委員会評価部会

(第1部会)

荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
久 保 猛 志	金沢工業大学教授
住 岡 英 毅	滋賀大学教授
中 野 美知子	早稲田大学教授
西 口 郁 三	長岡技術科学大学副学長
○福 田 康一郎	千葉大学教授
◎森 本 尚 武	前信州大学長

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第2部会)

◎赤 岩 英 夫	国立大学協会専務理事
○岡 本 靖 正	前東京学芸大学長
城 山 昌 樹	日興フィナンシャル・インテリジェンス投資工学研究所長
中 尾 昭 公	名古屋大学教授
永 原 裕 子	東京大学教授
松 下 照 男	九州工業大学教授
山 内 芳 文	筑波大学教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第3部会)

内 田 和 子	岡山大学教授
荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
◎梶 谷 誠	信州大学監事
喜 田 宏	北海道大学教授
○小 間 篤	科学技術振興機構研究主監
仙 石 正 和	新潟大学工学部長
藤 沢 謙一郎	信州大学理事・副学長
松 野 隆 一	石川県立大学教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第4部会)

◎鮎 川 恭 三	前愛媛大学長
生 田 茂	筑波大学教授
荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
吉 川 隆 一	滋賀医科大学長
住 岡 英 毅	滋賀大学教授
田 中 忠 次	東京大学教授
中 野 美知子	早稲田大学教授
○森 本 尚 武	前信州大学長

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第5部会)

○鮎 川 恭 三	前愛媛大学長
喜 田 宏	北海道大学教授
◎小 間 篤	科学技術振興機構研究主監
首 藤 恵	早稲田大学教授
仙 石 正 和	新潟大学工学部長
武 田 和 義	岡山大学資源生物科学研究所長
山 内 芳 文	筑波大学教授
吉 川 誠 一	株式会社富士通研究所常務取締役

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第8部会)

荻 上 紘 一	大学評価・学位授与機構教授
片 桐 庸 夫	群馬県立女子大学教授
金 川 克 子	石川県立看護大学大学院看護学研究科長
神 崎 秀 陽	関西医科大学教授
吉 川 隆 一	滋賀医科大学長
小 島 操 子	聖隷クリストファー大学教授
◎福 田 康一郎	千葉大学教授
○前 原 澄 子	京都橘大学看護学部長

※ ◎は部会長、○は副部会長

※ 上記評価部会の委員のほか、選択的評価事項Aにおいて書面調査を担当した委員

赤 岩 英 夫	国立大学協会専務理事
鮎 川 恭 三	前愛媛大学長
生 田 茂	筑波大学教授
内 田 和 子	岡山大学教授
岡 本 靖 正	前東京学芸大学長
小田原 雅 人	東京医科大学主任教授
梶 谷 誠	信州大学監事
片 桐 庸 夫	群馬県立女子大学教授
金 川 克 子	石川県立看護大学大学院看護学研究科長
神 崎 秀 陽	関西医科大学教授
喜 田 宏	北海道大学教授
吉 川 隆 一	滋賀医科大学長
草 間 朋 子	大分県立看護科学大学長
久 保 猛 志	金沢工業大学教授
小 島 操 子	聖隷クリストファー大学教授
児 玉 隆 夫	帝塚山学院学院長
小 間 篤	科学技術振興機構研究主監
坂 本 信 幸	奈良女子大学教授
島 内 節	国際医療福祉大学教授
首 藤 恵	早稲田大学教授
住 岡 英 毅	滋賀大学教授
仙 石 正 和	新潟大学工学部長
武 田 和 義	岡山大学資源生物科学研究所長
田 中 忠 次	東京大学教授
中 尾 昭 公	名古屋大学教授
中 野 美知子	早稲田大学教授
永 原 裕 子	東京大学教授

西 口 郁 三	長岡技術科学大学副学長
福 田 康一郎	千葉大学教授
藤 沢 謙一郎	信州大学理事・副学長
前 原 澄 子	京都橘大学看護学部長
松 下 照 男	九州工業大学教授
松 野 隆 一	石川県立大学教授
村 嶋 幸 代	東京大学教授
森 本 尚 武	前信州大学長